

第6回アジア学術会議開催にかかる事前打合せ（報告）

期 間：11月8日（火）～11月12日（土）

訪問先：インド（ニューデリー）、シンガポール

概 要：

標記会議に先立ち、会議を主催するインドの ICSSR (Indian Council of Social Science Research：インド社会科学研究会議) を訪問し、アンドレ・ベテイユ会長、ヴィノード・メータ事務局長他と会議についての事前打合せを行いました。（当方からはアジア学術会議分科会の深川由起子委員、西ヶ廣事務局長らが参加。）

打合せでは、標記会議の日程（2006年4月17日から19日）を確認するとともに、第6回のテーマ「農村開発のための組織と人材」に基づき、日本側が重視している「農村におけるインフラ開発」及び「都市と農村における格差是正」に観点をあつた基調講演を行うことなどに合意を得た上で、来年1月24日に日本で準備会合を行うこととし、アンドレ・ベテイユ会長他を招待しました。

また、シンガポールでは、西ヶ廣事務局長がシンガポール科学アカデミーのレオ・タン会長、フィリップ・ヨー科学技術庁長官、ピラハリ・コーシカン外務次官らと会談し、「アジア学術会議」への協力を要請しました。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官(国際業務担当)国際交流担当
(Tel:03-3403-1949、i253@scj.go.jp)

第11回ウ・タント記念講演（報告）

日時：11月9日（水）

場所：国連大学ウ・タント国連会議場（UNハウス3階）

テーマ：「新しい時代」

今回は1998年度ノーベル物理学賞受賞者のロバートB・ラフリン博士を講師として迎えて行われました。

日本学術会議からは、開会にあたって黒川清会長がご挨拶されました。

その後、ラフリン博士より、構造全体を研究することによって得られる新しい見方について、博士ご自身で描かれたイラストを多数

用いつつご講演をいただき、盛況のうちに閉会しました。

なお、黒川清会長より、「ラフリン博士は、日本学術会議 Japan Perspective' (2002年)と'Japan Vision 2050' (2005年)を極めて高く評価していました。うれしかったです。」とのコメントがありました。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課総括係
(Tel:03-3403-1250、p221@scj.go.jp)

I G B P 科学委員会議長及び事務局長来訪（報告）

11月4日、I G B P 科学委員会の Guy Brasseur 議長及び Kevin Noone 事務局長が西ヶ廣事務局長を意見交換のため訪問しました。

「地球圏 - 生物圏国際協同研究計画」(International Geosphere-Biosphere Programme) は、日本学術会議が参加している国際学術協力事業で、全地球システムで起こっている変化や人間活動による影響の実態を物理的、化学的、生物的過程の相互作用の面から理解するために実施されている研究計画です。

意見交換では、第2期に入ったI G B Pの事業、本年10月の組織改革を経た日本学術会議の新体制や本年5月のG8サミットに向けて発出された各国学術会議の声明のテーマのひとつである「気候変動」について、活発な議論が行われました。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官室（国際業務担当）国際調査担当
(Tel:03-3403-5731、i266@scj.go.jp)

科学者の行動規範に関する検討委員会の設置（報告）

10月27日の第4回幹事会において、課題別委員会として科学者の行動規範に関する検討委員会の設置が科学者委員会委員長から提案され、承認されました。

設置の必要性及び審議事項は以下のとおりです。

(1) 委員会設置の必要性・期待される効果等

第19期学術と社会常置委員会報告「科学におけるミスコンダクトの現状と対策 - 科学者コミュニティの自律に向けて - 」は、科学者個人、研究機関・学会、研究資金提供機関に向けた提言を行うとともに、その実現に向けて日本学術会議において検討すべき事項を指摘した。

また、科学技術は、人類に大きな恩恵を与えてきた一方、意図的であるか否かによらず環境や社会に脅威・危険をもたらすこともありう

ることから、科学者は科学技術の取り扱いに関し責任を負う。

さらに、現代社会の科学者の役割として、1999年にUNESCOとICSU（国際学術会議）の共催による「世界科学会議」において、「社会における科学と社会のための科学」という考え方が打ち出されるなど、科学者がその社会的責任を果たすことが強く求められる時代となっている。

日本学術会議としては、これらの第19期までの活動及び国際的動向を踏まえ、科学者の行動規範を作成する必要がある。

（2）審議事項

日本学術会議は、科学者コミュニティを代表する立場から、科学者コミュニティの自律性・倫理性を強化、担保するために、学会、関係諸機関とも協力して、科学者の倫理性について検討し、科学者の行動規範、あるいは憲章を提示する。

設置期間は平成17年10月27日から平成18年10月31日までです。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）付
(Tel:03-3403-1056、s254@scj.go.jp)

「科学技術分野のイノベーション：学術会議の改革」の放送 (お知らせ)

石倉洋子副会長はスカイパーフェクトTV（衛星放送）のビジネス・ブレイクスルーチャンネル（757ch）の番組「イノベーションライブ」の講師をされています。11月23日（水）21:00からの放送では、「科学技術分野のイノベーション：学術会議の改革」と題し、黒川清会長をゲストに招いての対談が行われますので、ご覧ください。

新規広報資料（お知らせ）

日本学術会議の広報資料「G8サミットに向けた各国学術会議の共同声明」が完成しました。

この資料は、本年7月6日～8日に英国において開催されたグレンイーグルズサミットに向けて、G8各国及び関係諸国の学術会議が共同で6月8日に発表した2つの声明「気候変動に対する世界的対応」及び「アフリカ開発のための科学技術」の内容をまとめたものです。

資料の詳細については、以下のホームページを御覧下さい。

(http://www.scj.go.jp/ja/info/print/pdf/taigai_reef4.pdf)

会員ホームページとのリンク募集（案内）

日本学術会議会員のホームページと日本学術会議のホームページとのリンクの募集を開始しました。

日本学術会議のホームページ（第20期会員一覧）の会員氏名をクリックすると、リンク先に移動するよう設定します。

（会員一覧：<http://www.scj.go.jp/ja/info/member/index.html>）

リンクを希望される場合は、リンク先アドレスをお知らせください。
なお、リンク先は会員ご自身のホームページとするようお願いいたします。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課広報担当

（Tel:03-3403-1906, p227@scj.go.jp）

=====

日本学術会議ニュースメールは、転載自由です。貴団体の学術誌等への転載や貴団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

なお、御意見等がありましたら、各問い合わせ先まで、お寄せください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、p228@scj.go.jpまで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34